

令和5年度 都留市公立大学法人評価委員会第1回会議の審議要旨

日 時	令和5年8月8日(火) 14:00~16:00
場 所	都留文科大学 THMC4階 6404号室
出席者	原護委員長、村田俊也委員長職務代理、青山伸一委員、小俣政英委員
説明者 (法人)	山下理事長、加藤学長、佐藤副学長、田中副学長、田中事務局長、 横瀬総務課長、小澤経営企画課長、久保田学生支援課長、上野教務課長、 山本総務課長補佐、三澤経営企画課長補佐、長坂学生支援課長補佐、 各担当リーダー
事務局	紫村総務部長、中野企画課長、秦企画課長補佐、加藤企画担当リーダー、 山口企画担当

会議の概要

(14時開会)

- 1 開会 (司会 紫村総務部長)
 - 2 市長挨拶 (都留市長 堀内富久)
 - 3 理事長挨拶 (理事長 山下 誠)
 - 4 委員紹介
 - 5 出席者紹介
 - 6 議題 原議長より本日の議題の内容を説明
 - (1) 令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価について
法人事務局より令和4事業年度の業務実績について概要(会議資料1)及び事前に評価委員から意見のあったもの(会議資料3)を中心に説明。(小澤経営企画課長)
- 各委員からの意見・提案等
- 【青山委員】
- ・「ラーニング・コモンズや空き教室の積極利用」について、本評価委員会の前に新たに整備した「Tsuru Humanities Center」を見学させていただいた。ラーニング・コモンズは今後の大学にとって強み・ポイントになると思う。具体的な利用状況の把握は難しいとの回答ではあったが、そういった観点からも利用状況の把握については検討していただきたい。

- ・前述の指摘とも関連して、数値目標の設定のない項目の達成状況及び達成度（評点）について抽象的な記載が見受けられ、そうした項目は評価委員としても評価が難しい。今後は具体的に達成状況を記載いただき、「ここまで達成したからこの評点である」という根拠が分かるように努めていただきたい。
- ・「市内就職説明会の実施」について、最終的な目標は市内企業への就職者を一人でも増やし、市内へ定着していただくことだと思う。市内企業への就職者数を口頭で補足説明いただいたが、そうした成果についても達成状況として記載していただきたい。

【村田委員】

- ・地域への貢献施策について、教員養成大学ならではの取組も多く、地元に着した事業を数多く実施されているという印象を持っている。
- ・意見として青山委員の指摘とも重複するが、実施された事業で努力された点やその成果をもっと記載すべきである。ラーニング・コモンズの利用促進や奨学金制度の見直しなど、質問をすると様々な取組をされていることが分かり、法人の自己評価にも納得できるので、次年度はその点を意識して達成状況を記載されたい。
- ・令和4年度計画において数値で目標を記載している項目の中で中期計画では数値目標となっていない項目がある。次期中期計画を策定する際にはできる限り数値目標を盛り込んでいただくとともに、年度計画の達成状況も定量的な成果を記載していただきたい。

【小俣委員】

- ・法人からの評価報告及び事前意見等に対する回答については異論なく、引き続きよりよい大学となるよう運営していただきたい。
- ・地域貢献事業に関連して、ふるさと時代まつりにもぜひ学生に積極的に参加をしていただきたい。

⇒法人からの回答

【田中事務局長】

- ・委員の皆様にはありがたいご助言、ご意見を頂戴し感謝申し上げます。いただいたご意見等については次年度以降に反映できるものがないか、法人内部においても検討をさせていただきます。
- ・小俣委員からのご意見について、ふるさと時代まつりには今年も交換留学生が参加させていただくほか、「つる子どもまつり」などでは一般の学生も地域の事業に協力をさせていただいている。今後も市とも連携を図る中で学生が地域の事業に参加できるよう事業に取り組んでいく。

【山下理事長】

- ・委員からご指摘いただいた達成状況等の記載については、抽象的な記載もあり明確な根拠をもって説明を行うという姿勢が欠けていたと私自身感じており、今後はそうした点については注意していきたい。
- ・また、達成状況は本来、「増えた・減った」という結果でみるべきところを、「増やすために講じた施策」をもって目的を達成したという項目が見受けられる箇所もあるので、そうした点については事務局一同反省の上、今後の評価につなげてまいりたい。

【原議長】

- ・国際化について、今後の方針等を詳しくお聞かせ願いたい。

⇒法人からの回答

【加藤学長】

- ・海外との交流に関してはコロナ禍で中断を余儀なくされていたが、令和4年度の下期から留学生の行き来が再開され始めたところ、令和5年度はコロナ以前の水準に戻ってきている。過去3年間で留学に行きたくても行けなかった学生を送り出さなければいけないと考えており、従来よりも多くの交換留学を行う方針でいる。
- ・今後に向けて大学の課題としては、英語圏との交流が少なくなってきており、交流先となるような大学等を模索していかなければならない。特に交換留学の場合は、海外からの学生の受け入れ先として本学が選ばれなければならない、日本語科目の充実や地域交流プログラムの充実等にも取り組んでいきたい。

【事務局：紫村総務部長】

- ・山下理事長からも発言があったように、計画の策定や達成状況に関して市職員に目を向けてみても、客観的な視点が欠けていることが多いと感じる。検討を行うことが目的ではなく、検討し成果を上げることが事業を行う上での目的であることを、本評価のみならず、市役所全体として意識していかなければならない。

○とりまとめ、最終評価について

協議を踏まえ、一部に遅れはあるものの全体として順調に推移していることから「中期計画の進捗は順調である」のA評価としてよいか。(原議長)

⇒異議なし。(一同)

議事終了

7. その他

(1) 都留文科大学ビジョン 2023～2026

加藤学長より、配布資料により説明。

(2) 地方独立行政法人法の改正について (加藤企画担当リーダー)
加藤企画担当リーダーより、配布資料により説明。

(3) 今後の日程について (中野企画課長)
中野企画課長より、評価結果書の取りまとめ及び都留市議会 9 月定例会への報告等、今後の進め方について説明。

8. 閉会

(16 時閉会)